

報告書(案)の概要

調査検討の目的

- 平成20年8月、デジタル方式簡易無線が制度化。(400MHz帯のみ実用化。)
- 150MHz帯は、周波数ひっ迫のため割当周波数未整備。
- 150MHz帯デジタル簡易無線の実用化のため、アナログ簡易無線と周波数を共用(共存)するための条件を検討。

現状と課題

【150MHz帯簡易無線の運用実態と需要】

- 局数→全国138千局、北陸4.2千局 (H22.12現在)。
- 90%以上が基地・車載で使用。(400MHz帯は携帯中心)
- 山間地等条件不利地域でのエリア確保に有利
- 新スプリアス合格機器への更新→全国10%程度・北陸6%程度。

○150MHz帯CRは、根強い需要があるが増加できない。

【デジタル化への対応】

- 各種無線システムがデジタル化→ユーザーの利便向上
- 新スプリアス規制対応機器への移行(H34.11.30まで)

○早期にデジタル化することが必要。

通信試験

【公開通信試験の実施】

- デジタル・アナログ間の影響、400MHz帯との差異等諸データを取得。(H22.11.18 大野市)

【データ取得試験の実施】

- 詳細な特性データを取得→アナログ局の電波発射がデジタル局で認識できない場合があることが判明。
- デジタル局がアナログ局の運用に妨害する可能性あり。
- アナ→デジ移行中は、課題に配慮したch割当が必要。

まとめ

- 通信試験の結果から、周波数割当案(共用)と課題を列記。

- **もっとも実用的と考えられる周波数割当案を提案。**

- **中継系・データ通信系の周波数の利用(割当)についても提言。**
- **新しいアプリケーションも提言。**

- **150MHz帯デジタルCRの早期実現に期待。**